

# 小学校・第6学年・道徳科・主題名「真の友情」 B 友情、信頼

## 育成を目指す資質・能力

鳥取県提供

友達の立場や気持ちを理解し合うことで、互いに高め合うような友情を深めていこうとする心情を育てる。

## ICT活用のポイント

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うために、デジタルホワイトボードソフトを活用することで、自分とは異なる様々な考えに出会い、道徳的価値について多面的・多角的に考えられる。

### 事例の概要

#### ①導入：学級の実態を知る。

行事の後：「友情を深めるために大切な事は何だろう。」

#### ②展開1：「ロレンゾの友達」を聞き、自分は、誰の考えに近いのか考える。

自分の意思を明確にする。

#### ③展開2：「三人は、なぜ木の下で話したことを言えなかったのか」について考える。

#### ④終末：自分自身を振り返る。

「友情を深めるために大切な事は何だろう。」（再度問う）

◎「ロレンゾの友達」(出典：読み物資料とその利用)を読むことを通して、友達のためにするべきことを話し合う3人の思いや考えについて、自分事として考える。

◎学習支援ソフトに、プレゼンテーションソフト、デジタルホワイトボードソフトの課題を準備する。

・最初と最後の記録はプレゼンテーションソフトに行い、クラウド上に保存

・意思決定：デジタルホワイトボードソフト

・「友情を深めるために大切なこと」授業前、授業後のアンケート比較：アンケート機能

①プレゼンテーションソフトを使用し授業前の価値への捉えを記録する。

(授業後にも同じ問いをすることで、授業後の価値の変容の自覚へつなげる。)

②デジタルホワイトボードソフトを使用し、自分は3人のうち、誰の考えに近いのかを考えながら付箋に意見を書き、貼り付けていく。

次に、グループの友達の考えを読み合い、共感すること、もっと詳しく聞きたいこと等をグループのプレゼンテーションソフトに書き込むことで、自分の考えを整理する。

③中心発問に関しては、自分の考えを明確に持った上でグループで話し合う。

④様々な考え方に触れた後、再度、「友情を深めるために大切なことは何か」について問うことで、考えを深める。

⑤振り返りとして、今日の時間を通して分かったこと、考えが変わったこと、自分への気づき、これからの自分について等、プレゼンテーションソフトに記録する。

# 小学校・第6学年・道徳科・主題名「真の友情」 B 友情、信頼

## 【ICT活用場面①】

宿泊体験を通して、友情を深められましたか。  
はい 30人 いいえ 0人  
○苦しいときは助けあえたから  
○思いを伝え合えたから  
○素直に思ったことを言えたから  
○一緒にいてがんばれたから  
○こまったことも、一緒にできたから

**最初のアンケート**

教材名「ロレンソの友達」B-(10)友情・信頼

○友情を深めるために大切な事は何か。  
○さらに友情を深めるために大切な事は何かを答えながら、今日の学習を取り戻しましょう。

**プレゼンテーションソフトを使った授業記録**

## 【ICT活用場面②】

3人の中で、あなたはだれの考えに一番近いですか。

<b>アンドレ</b> お金を持たせて逃がす ロレンソが本当にお金をとっているのか、もしかしらう、ちがうのかもわからない。 逃がすことはよくないけど、友達がかまえるほうがいい。	<b>サバイユ</b> 自首をすすめ、本人が納得しなければ逃がす ぼくは自首をすすめたいけれど、最後に決めるのは本人だ。	<b>ニコライ</b> 自首をすすめ、本人がしなれば、警察へ連絡する 大切な友だちだからこそ、悪いことは悪いと、きちんと言いたい。
---	--	---

3人の中で、あなたはだれの考えに一番近いですか。  
友だちの考えを見ながら、同じ思いや、もっとわくわく聞きたいことに線をひこう。

<b>アンドレ</b> お金を持たせて逃がす ロレンソが本当にお金をとっているのか、もしかしらう、ちがうのかもわからない。 逃がすことはよくないけど、友達がかまえるほうがいい。	<b>サバイユ</b> 自首をすすめ、本人が納得しなければ逃がす ぼくは自首をすすめたい。でも、決めるのは本人だ。	<b>ニコライ</b> 自首をすすめ、本人がしなれば、警察へ伝える。 大切な友だちだからこそ、きちんと悪いことを言いたい。 ようわさを催し、相手の気持ちを思い、伝えることができるのが、本当の友だちだ。 にける方が、もっと悪いはず。彼で、きつと後悔する。
---	---	--

## 【ICT活用のメリット】

○「友情を深めるために大切なこと」について、アンケート機能の活用により、学級の実態を自覚できる導入となる。学習前のアンケート結果と学習後の結果を共有することで、価値理解の深まりの自覚へもつながる。テキストマイニングを使うと、重要と考えていたキーワードの変容も共有でき、多面的・多角的な見方ができる。

○デジタルホワイトボードソフトの活用では、グループごとにシートを分け、付箋に考えを書くことで、自分の意思を明確にすることができる。他のグループシートを見ることもでき、多面的・多角的な見方や考え方に触れることもできる。また、自分の考えが明確になり、思いを伝えやすくなる。

1つのシートを通して、グループのメンバーの思いや考えをいち早く共有することができることや、付箋に名前は書かないため、本音を語ることができる。

○プレゼンテーションソフトを活用し、自分の変容、新しい気付き等を、クラウド上に保存することができる。クラウド上にあることで、教師がいつでも必要な時に確認ができる。

【活用したソフトや機能】学習支援ソフト・プレゼンテーションソフト  
デジタルホワイトボードソフト・アンケート機能・テキストマイニング